

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1290400074		
法人名	有限会社 リンクステージ		
事業所名	グループホーム さくらんぼ		
所在地	千葉県千葉市若葉区野呂町1793-355		
自己評価作成日	平成22年3月11日	評価結果市町村受理日	平成22年7月6日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo.chibakenshakyo.com/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 VAICコミュニティケア研究所		
所在地	〒260-0026 千葉市中央区千葉港4-4 千葉県労働者福祉センター 5階		
訪問調査日	平成22年3月30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者のそれぞれの立場、状態、状況に立って物事を考え、人として生きていくことを大切に考え支援している。また、ご家族との信頼関係を築くことにも力を入れている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

オープンして2年が経過したフレッシュなホームである。建物は、細部に配慮を凝らして建てられた使い勝手のよい造りで、さくらんぼを意識した、柔らかなピンク色の内装で統一されている。同ホームでは、医療行為が必要無い限り、重度の認知症でも受け入れる方針を持ち、介護技術による認知症緩和を目指している。法人代表は長年福祉施設に勤務した経験があり、大型施設ではできない、入居者一人ひとりに寄り添う、個別具体的な介護を行うため、ホームを立ち上げた。昨年は4人の入居者の看取りを行い、ターミナルケアの実績を積んでいる。地域との繋がりも少しずつ深めており、今後の期待される。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに 印	項目		取り組みの成果 該当するものに 印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価(1階ユニット) および外部評価結果(全ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	設立時より、理念をつくり実践している。特に職員採用時には時間をかけて研修を実施している。	入居者個々の立場に立ち、誠意ある支援をするという理念を打ち立てている。ホーム自体が新しいため、新人職員を含め、理念に沿った介護を、管理者が指導・育成しているところである。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	近隣の住民との交流、地域の行事、近隣福祉施設等の行事にも積極的にさんかさせてもらっている。	少しずつ近隣と顔見知りとなり、交流を深めているところである。在宅介護の電話相談などにも快く応じている。地域住民との交流については、引き続き働きかけがされるとよいと思われる。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	少しずつではあるが、実践を通じて地域の人々からの相談等に応じている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を定期的開催し、利用者の支援内容の報告、話し合いを行っている。	21年度は運営推進会議を6回開催している。参加者は、あんしんケアセンター美香苑職員およびホーム関係者らである。入居者家族、地域住民の参加が少ない。	地元自治会や民生委員、家族にも関心を持って貰えるよう働きかけることが望まれる。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	千葉県高齢施設課担当者等、必要に応じて運営上の相談をしている。また、千葉市で実施している研修に参加し専門職の資質向上等に協力している。	市とは必要に応じて連絡を取り合っている。また千葉県認知症対応型サービス事業(管理者研修)にシンポジストとして参加し、介護の質向上に貢献している。市へ新人研修の開催提言も行い、社協主催で実現の予定である。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員が正しく理解できるよう教育しながら、身体拘束のない支援をしている。	身体面でも心理面でも、拘束はしないよう、日ごろから注意している。身体拘束や高齢者虐待は、毎月の職員の会議の議題に必ず挙げており、管理者が説明を重ねている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者が千葉県高齢者権利擁護研修を受講し会議や研修および日常の支援を通じて職員の教育を行っている。日頃から利用者を注意深く観察し防止に努めている。		

グループホームさくらんぼ 自己評価(1階)・評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	特に学ぶ機会は設けていないが、対象となる利用者が今後いれば利用者家族等と話し合い支援していく。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、契約書、重要事項説明書について十分説明し納得してもらったうえで契約している。入居に際しての不安点、疑問点についても説明し理解していただいている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者からの意見、要望、不満、苦情について全職員で対応している。また、苦情受付窓口、責任者を明確に示している。	原則的に家族には、心身を休めてもらうことをモットーとしており、自由な面会は拒まないが、会議参加や面談等を強要しないことにしている。一方でこの方針により、全家族と意見交換する機会が少ないように見受けられる。	家族の参加や協力などを強要しない方針は理解できるが、潜在的なニーズの把握のための工夫も必要と思われる。
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議や日常の支援を通じて職員からの意見や提案を聞き、反映させている。	管理者・従業者が共に参加しての会議は行なっている。しかし、他介護施設での勤務経験がない新人を優先的に採用する方針のため、まだ育成途中の職員が多く、これらの職員の意見をどう吸い上げ、反映させていくかが課題と思われる。	管理者は、職員個々との対話の機会を増やし、ホームの運営に関して、職員の意見をより一層反映させる事が望まれる。
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	労働基準法を遵守し、就業環境を含め整備に努めている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	日常的に、専門的知識、技術向上できるようトレーニングしている。内外の研修を段階に応じて受講させている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の同業者と相互の意見交換や見学、研修の受け入れ等行い交流を図っている。		

グループホームさくらんぼ 自己評価(1階)・評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>日頃より注意深く観察し、申し出がなくても話を聞く機会をつくる努力をしている。</p>		
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>入居前から、家族の要望、困っていることの解決策を提示する等詳細にわたり実施している。</p>		
17		<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>本人や家族の、必要としている支援を見極め、最善の解決策について必ず話をしている。</p>		
18		<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>利用者から学ぶことは多く、日常的に様々なことを教えてもらえるよう支援している。</p>		
19		<p>本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>契約の時点で、利用者を共に支えていくことの重要性を理解していただき、行事等の参加等を通じて徐々に関係を築いている。</p>		
20	(8)	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>家族と話し合いながら、友人等馴染みの方の面会ができるよう支援している。</p>	<p>家族をはじめ、友人、知人の訪問は歓迎している。墓参り等の個人的な外出も支援している。生活歴を反映した関係継続の支援をする一方で、入居者の現在の状況や気持ちも大切に考えている。</p>	
21		<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>仲の善し悪しや、関係性を把握する努力をし利用者同士の理解ができるよう支援している。</p>		

グループホームさくらんぼ 自己評価(1階)・評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院等で利用が終了した後も、継続的に関わり支援している。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者個々の要望、意見を聞き支援している。困難な場合は家族と話し合い、相手の立場に立った考えを基本に支援している。	日常の会話等の中から、入居者個々の思いや意向を把握するように努めている。認知症があっても、まずは普通に話しかけ、返答を待つことにしている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前から、生活歴、馴染みの生活スタイルを必ず聞き把握に努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その時々を利用者の状態を把握するように努め、支援している。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	管理者、計画作成担当者、職員で話し合い、作成している。本人や家族とは日頃から必要に応じて連絡、報告等密にとっている。	チームで話し合い、計画作成担当者が介護計画を作成している。定期的および随時に入居者の状況を把握し、情報共有している。記録の取り方や見やすさの工夫なども加えると、さらに良いと思われる。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者個々に記録をとり、情報を共有し支援の見直しに活かしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	当ホーム独自で行える支援等を考え、実施できるよう努力している。		

グループホームさくらんぼ 自己評価(1階)・評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者本人の要望等に合わせ、地域資源を活用できるよう支援している。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療連携体制について説明の上、理解いただいている。月2回の医師の往診及び週2回の訪問看護を基本に、専門医の受診も併せて実施し支援している。	原則としてホームの提携病院である千葉南病院をかかりつけにしている。持病等で専門医にかかる時には、もともとのかかりつけの病院に送迎している。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者をよく知る協力病院の担当看護師が、週2回訪問しその都度相談している。また、電話を利用し相談し助言を得ながら支援している。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	往診の医師と、協力病院入院時の担当医師が同一であり、その都度情報交換、相談等を行っている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化、終末期の支援方針について文書を作成し、入居時に家族に説明している。	医療行為が必要ない限り、ホームで看取りまで行う方針である。千葉南病院や訪問看護ステーションとはしっかり連携している。昨年は4人の看取りを行った。今後は、職員がゆとりを持ってターミナルケアに当たれるよう、スキルの向上が図られると、さらによいと思われる。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員に対し緊急時の対応について、採用時に必ず研修を実施している。定期的な訓練までは実施できていない。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	職員に対し緊急時の対応について、採用時に必ず研修を実施している。地域との協力体制はできていない。	ホーム独自の避難訓練は実施しているが、消防署が立ち合っていない。また地域との協力体制はまだ作られていない。	自治会、民生委員、近隣民家との話し合いを深め、非常時の連携体制を作ることが望まれる。消防署立合いのもとに避難訓練をすることも必要と思われる。

グループホームさくらんぼ 自己評価(1階)・評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日頃から敬語等を基本に使用し、利用者個々の立場に立って理念に基づいて支援している。	食堂と居室を離す、トイレ脇に仕切りを作り出入りが見えないようにするなど、プライバシーに気遣った造りの建物である。接遇面でも尊厳に配慮している。しかし職員によって意識やスキルの差があるように見受けられる。	管理者、全職員で話しあい、尊厳を含め、プライバシーについて再確認することが望まれる。
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者個々が、自己決定できるよう働きかけている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペースに合わせて支援するよう努力している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日々の整容支援、訪問美容を利用しおしゃれができるよう支援している。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者個々の好みを活かし、準備、調理、後片付け等共に行ってもらっている。	手作り、出来たての食事を、入居者と職員と一緒に楽しんでいる。入居者の身体の状況に応じて、刻みやおにぎりにするなど個別対応もしている。箸や湯飲みは一人ひとり決まったものを使い、家庭的な雰囲気の食卓である。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者個々の状態に合わせて栄養、摂取量を管理し支援している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者個々の能力に応じ朝食後、夕食後に支援している。		

グループホームさくらんぼ 自己評価(1階)・評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者個々の能力、状態に応じて支援している。	出来る限り、トイレで排泄できるよう、職員が声かけするなどして、支援している。やむを得ない場合のみ、オムツにしている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者個々の状態に応じて、水分摂取を勧め、乳製品等をとってもらおう等取り組んでいる。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	時間帯は決めているが、曜日は決めず支援している。必要に応じて時間帯をずらすこともある。	原則的には、日中に入浴支援している。強要はせず、入居者個々の気持ちに沿った支援をしており、概ね1～2日に1回、入浴している。シャワーは随時使用できる。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣や、利用者個々のその日の体調等に合わせて支援している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬状況の管理を徹底している。また、医師、看護師と連携し症状の変化について確認をしている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者同士の助け合いや、掃除、食事の準備等役割を持って生活できるよう支援している。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出に機会、散歩、買い物等支援しているが、機会はまだまだ少ない。	昨年は職員の入退職や、看取りなどがあり、外出の機会があまり取れなかった。最近、軽自動車を一台購入したため、買い物や散歩等、より一層の外出の機会増を検討している。	

グループホームさくらんぼ 自己評価(1階)・評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人、家族と話し合いながらお金を所持してもらう支援をしている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望があれば、利用できるよう支援している。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	花瓶に花を飾る、観葉植物を置く、またクリスマスツリーを置くなど、季節に応じて工夫している。	新築の建物は明るく、清潔感がある。床の色、トイレの仕切り、食堂と居室を離すなど、そこかしこにこだわりがみられる。装飾は少なくし、大人の生活空間を意識している。空気清浄や加湿には特に気を配っている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング以外にも、談話スペース等過ごせる場所を作っている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室で使用する家具等は、本人や家族と相談し状況に応じて使用してもらえるようにしている。	備え付けのカーテンは入居時に自由に色を選べる。ベッド、畳に布団など、入居者は個々に自分らしい部屋作りをしている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、食堂リビング、階段に手すりを設置している。車いすの利用にも配慮し段差を無くしている。		